

医療従事者応援プロジェクト 只今進行中 ～ハガキで感謝の気持ちを届けよう～



一般社団法人 生産技術振興協会 執行理事 兼 事務局長
公益社団法人 日本WHO協会 執行理事 一級建築士/工学博士

異 昭夫

昭和27年3月生まれ、大阪大学工学部建築学科卒業。
一級建築士の立場から、換気的重要性や間仕切りによる
自宅隔離の在り方について関心を高めている。

はじめに

「医療従事者を応援しよう!」、「医療従事者の家族に差別をなくそう!」と、銘打ち、当協会と生産技術振興協会との共催でこの事業は始まりました。まずは、小学生から始めました。

年初来、医療従事者はコロナウイルスと最前線で日夜奮闘され、まもなく1年を迎えようとしています。国内では、冬を迎え感染者数が増加傾向をたどっています。欧州や米国、インドなどでは、いまだ感染者数は増大を続けています。With コロナの時代はこれからが本番です。

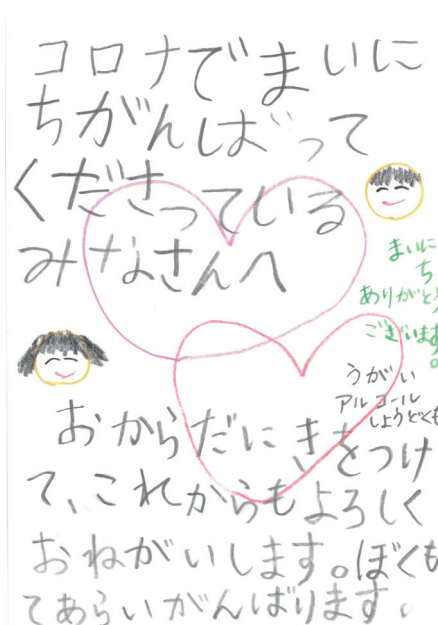
エッセンシャルワーカーに感謝の気持ちを伝え、いわれなき差別を減らすために、このプロジェクトは、現在小学生の部を終え、中学生の部に移行しています。作品はがきをパネルに貼付し、ドクター・ナースそして患者の方々にもエールを送ります。今回は、小学生の部の作品パネルの贈呈式風景を紹介いたします。

印象的な作品

660 通以上のおはがきを頂戴しました。主催者としては予想以上のお申し込みです。紹介し切れませんが、印象的な作品を四点ご紹介します。そのうちの1作品は締め切り日に、土曜日閉館中の商工会議所に、守衛さんに説明して父兄のお母様が「本日必着と聞き、間に合わない大変。」と事務局に駆け込まれました。作業中の我々は何事かとびっくりしました。お母様の励ましに後押しされ、一生

懸命書いてくれた小学校1年生のよい子の作品を紹介します。なお、主要な作品は、協会のHPに掲載されています。小学生たちの心のこもったすばらしい作

品の数々です。ぜひ一度ご覧ください。優秀賞10作品・佳作10作品が当協会のH.Pからご覧になれます。



よい子達の作品

地球的に考え、地域的に行動する

当協会はこれまで国際的視野で健康保健に関する様々な事業を進めて参りました。併せて、足元の地域の一般市民の方々に直接訴えかけていくことも大切だと考えています。このような事業を通じて当協会が地域の人々により広く認知され、より多くの理解者・協力者をえることも今後の活動に繋がることを願っています。



山口副理事長と中村理事長



生駒副理事長によるプロジェクト説明

当協会はこれからも国際的活動とともに、地域での活動も強化してゆく所存です。共感頂ける会員のご紹介をお願いいたします。

作品の贈呈式風景

現在、小学生の部の作品募集が終了し、医療機関等への寄贈を進めております。

写真は、当協会の中村安秀理事長や生駒副理事長が、新型コロナウイルス重症患者受け入れ病院の一つである大阪府市総合医療センター、市立ひらかた病院を訪れ、作品をパネルにして贈呈している様子です。最後に、献身的に活動頂いた賛助会員の藤原秀憲君に謝意を表します。



大阪府市総合医療センター 白野医師、飯田医師と中村理事長



市立ひらかた病院でのパネル贈呈